

〈資料〉

Kimono か quimono か

—「着物」のスペイン語表記をめぐる—

松下直弘

要 旨

日本語の「着物」は、スペイン語で kimono あるいは quimono と表記される。さまざまな文献からそれぞれの頻度数を比べてみると、どちらかに極端に偏ることなく、両者とも使われていることがわかる。スペイン王立アカデミーは長年 quimono の方が好ましいとしてきたが、21 世紀に入ると、kimono の方が望ましいとし、quimono という表記も可とする方針を打ち出した。これ以降、スペイン王立アカデミー監修のスペイン語辞書をはじめ、いくつもの辞書が kimono の項で語義を載せるようになった。だが、相変わらず quimono という表記はよく用いられている。外来語として意識される kimono に対し、すっかりスペイン語の一部となった quimono が用いられるのは好ましい現象ではないだろうか。

キーワード：外来語の表記、着物、スペイン語と日本語

1. 「着物」のスペイン語表記をめぐる

日本語の「着物」はスペイン語に取り入れられ、現在 kimono あるいは quimono と表記される。この語が外来語であることを考えれば、外来語のみに用いられる文字 k を含む kimono という表記が適当であるように思われるが、[ki] の音を表すスペイン語の一般的な綴り qui を用いた qui-

monoの方を選ぶ人も少なくない。

1609年、マニラからヌエーバ・エスパーニャ（現在のメキシコ）へ船で向かう途中、遭難して日本に漂着したRodrigo de Viveroは、帰国後『日本見聞録』（*Relación del Japón*）を著しているが⁽¹⁾、その中で「着物」に相当する語 *quimones* を3回使っている。「着物」という日本語は、Rodrigo de Viveroの耳には、語末が鼻母音化した *quimón* と響き、その複数形 *quimones* を記したと思われる⁽²⁾。

Habiendo llegado a este lugarejo, el intérprete de su nación que conmigo iba, les dijo que yo era el Gobernador de Luzón, que así se llamaban las Filipinas, y comenzó nuestro discurso desgraciado, del que ellos se enternecieron, y las mujeres lloraban, que son por ese extremo compasivas, y así nació de ellas el pedir a sus maridos que nos prestasen algunas ropas que llaman *quimones*, forradas de algodón, como lo hicieron liberalmente. (*Relación de la Camboya y el Japón*, p. 139)⁽³⁾

Trájome de presente cuatro ropas, que como he dicho, se llaman *quimones*, forrados de algodón de damasco, y telas diferentes guarnecidas en oro y seda. (*Ibid.*, p. 140)

El príncipe me esperó en una sala grande, que en medio de ella había tres escalones y seis u ocho pasos más adelante estaba sentado en el suelo y sobre este género de esteras que he dicho, y con un puño cuadrado como alfombra de terciopelo carmesí guarnecido de oro, y el vestido de verde y amarillo, con la ropa de lo que llaman *quimones*, y ceñida su espada y daga, que dicen cazanas, en la cabeza

no tenía más que una cinta de color, y trenzado el cabello con ella.
(*Ibid.*, pp. 147-148)

Quimono という表記を多く用いたスペインの代表的な作家は José María Gironella である。1963 年、東京オリンピック開催直前の日本を訪れた Gironella は、翌年に *El Japón y su duende* というタイトルの日本旅行記を著し⁽⁴⁾、その中で quimono という語を 24 回使っている。

そのほか、kimono ではなく quimono を選択した主な作家には、Ramón María del Valle-Inclán (*Tirano Banderas*, 1927), Elena Fortún (*El bazar de todas las cosas*, 1935), Carmen Laforet (*Nada*, 1945), Eduardo Mendoza (*La ciudad de los prodigios*, 1986), Juan Marsé (*El embrujo de Shanghai*, 1993) などがいる。

一方、kimono という表記を何度も用いた代表的な作家は、スペインの Vicente Blasco Ibáñez とベネズエラ出身の Teresa de la Parra である。関東大震災後の日本を訪れた Vicente Blasco Ibáñez は、『ある小説家の世界一周』(*La vuelta al mundo de un novelista*)⁽⁵⁾の中で kimono という語を 32 回用いている。彼は、紀行文の中だけでなく、小説の中でもしばしば kimono という語を用いている。また、Teresa de la Parra は、ベネズエラの若い女性を主人公にした小説 *Ifigenia*⁽⁶⁾の中で、kimono という語を 19 回使っている。

グアテマラ出身の Enrique Gómez Carrillo やスペインの Luis de Oteyza も日本滞在記を著しているが⁽⁷⁾、彼らも quimono ではなく kimono を用いている。さらに、清少納言『枕草子』のスペイン語訳 *El libro de la almohada*⁽⁸⁾を世に出した Jorge Luis Borges と María Kodama 夫妻も quimono ではなく kimono を用いている。また、1897 年(明治 30 年)にスペイン人 C.Yñigo が日本で著した日本語学習書 *Vocabulario japonés*⁽⁹⁾にも、基礎語彙の中に kimono が出てくる。

西暦 2000 年までに使われた語彙を集めた Real Academia Española のスペイン語コーパス, *Corpus del nuevo diccionario histórico del español* (CDH) によれば⁽¹⁰⁾, quimono は 23 の文献で延べ 113 回, kimono は 55 の文献で延べ 100 回現れている。さらに, 2001 年以降に使われている語彙を集めた *Corpus del español del siglo XXI* (CORPES XXI) では⁽¹¹⁾, quimono は 32 の文献で延べ 50 回, kimono は 110 の文献で延べ 168 回現れている。

これらのデータから判断すると, kimono と quimono はどちらかに極端に偏ることなく, 両者とも使われていることがわかる。では, スペイン語圏で出版された辞書ではどのように扱われているだろうか。

1917 年に José Alemany y Bolufer が編纂した *Diccionario de la lengua española*⁽¹²⁾ には quimono の項が作成されている。その後, 1925 年に出された Ancieto de Pagés 編纂, José Pérez Hervás 補遺 *Gran diccionario de la lengua castellana, autorizado con ejemplos de buenos escritores antiguos y modernos*⁽¹³⁾ にも quimono の項が見られる。1927 年刊行の *Diccionario manual e ilustrado de la lengua española*⁽¹⁴⁾ にも quimono の項があり, 1950 年, 1984 年, 1985 年, 1989 年と版を重ねても常に quimono の項で語の説明をしている。さらに, 現在まで何度も版を重ねている Real Academia Española の *Diccionario de la lengua española* (DRAE) でも, 長年にわたって quimono の項で語義の説明をしてきた⁽¹⁵⁾。

また, María Moliner の *Diccionario de uso del español*⁽¹⁶⁾, Martín Alonso の *Enciclopedia del idioma*⁽¹⁷⁾, VOX *Diccionario general ilustrado de la lengua española*⁽¹⁸⁾, *Diccionario Anaya de la lengua española*⁽¹⁹⁾, *Diccionario Salamanca de la lengua española*⁽²⁰⁾, *Diccionario general de la lengua española*⁽²¹⁾ など, 定評ある辞書の多くも quimono で項目を立て, kimono の項では「quimono を参照せよ」と記されるのが通常だった。

1995 年に刊行された *Diccionario para la enseñanza de la lengua es-*

pañola の kimono の項には、「Real Academia Española は quimono という表記を好ましいとしている」と明記されている⁽²²⁾。

しかし、21 世紀に入ると、ある変化が見られる。Real Academia Española が 2005 年に刊行した辞書 *Diccionario panhispánico de dudas*⁽²³⁾ では、kimono の項に次のような定義を載せ、quimono という表記も可とした。

kimono. ‘Túnica japonesa con mangas anchas y largas’. Esta es la grafía originaria y más frecuente en el uso; también es válida la adaptación posterior *quimono* (→ k). (P. 386)

そして、2006 年に出版された Real Academia Española の *Diccionario esencial de la lengua española*⁽²⁴⁾ では、kimono の項で語義を載せるようになり、その翌年に Antonio Fernández Fernández が著した *Diccionario de dudas*⁽²⁵⁾ でもこの考え方が踏襲され、quimono は kimono という書記法の方が望ましいと明記された。

quimono Para este sustantivo del masculino se prefiere la grafía *kimono*. (*Diccionario de dudas I-Z*, p. 169)

さらに、Real Academia Española が 2010 年に出した *Ortografía de la lengua española* (『スペイン語正書法』)⁽²⁶⁾ も、quimono ではなく kimono と綴る方が良いとした。日本語からスペイン語に入った音素 /k/ を含む語は他にもあるが、「柿」や「柿色」は kaki よりも caqui, 「腹切り」は haraquiri よりも harakiri, 「神風」は camicace よりも kamikaze, 「帝」は micado よりも mikado が良いと説明している。そして、後者が望ましいのは、多数の人によって使用されている綴りであるため (por corres-

ponder al uso mayoritario) と述べている。⁽²⁷⁾

この『スペイン語正書法』により、quimono という表記は容認されるものの、kimono と記した方が良いという考え方が Real Academia Española によって、はっきり打ち出されたと言える。そのことを示すかのように、当時スペイン王立言語アカデミー会長を務めていた José Manuel Blecuca が監修した SM 社の *Diccionario básico de la lengua española: primaria* (2014 年初版) では⁽²⁸⁾、quimono の項では語の定義をせず、kimono の項でイラストと共に語義を説明している。

教育図書出版社としての歴史が長い SM 社は、それ以前にもたくさんの辞書を世に出しているが、*Diccionario didáctico de español*⁽²⁹⁾、*Diccionario esencial de la lengua española*⁽³⁰⁾、*Diccionario Primaria*⁽³¹⁾ など、いずれも kimono の項では説明を省略し、quimono の項で語義を述べていた。2010 年を境として quimono から kimono への転換がなされたことが、辞書の編纂方針に明確に現れているようである。もちろん、Real Academia Española が 2014 年に出した *Diccionario de la lengua española* (第 23 版)⁽³²⁾ でも、それまでの版とは異なり、kimono の項で語の意味が述べられている。

一方で、相変わらず kimono より quimono を優先させている辞書もある。

Santillana 社が 2012 年に刊行した *Nuevo diccionario escolar de la lengua española*⁽³³⁾ では、kimono を引くと quimono の項を参照するようにという指示が出ていて、quimono は次のように定義されている。

quimono s.m. Prenda de vestir japonesa que usan las mujeres y que parece una bata larga y cruzada con las mangas muy anchas.
(p.988)

また、同社が2013年に出版した *Nuevo diccionario básico de la lengua española*⁽³⁴⁾、2015年に出版した *Nuevo diccionario esencial de la lengua española*⁽³⁵⁾ でも、同様に quimono の項で語義を載せている。

興味深いことに、Real Academia Española 編纂の *Diccionario práctico del estudiante*⁽³⁶⁾ は2012年に出されているが、kimono で引くと kimono→quimono となっていて、quimono の項で意味を説明している。

近年、スペイン語圏の人たちの日本文化に対する関心は急速に広がり、その理解の仕方も深まっている。外来語として取り入れられた日本語の語彙が、いつの間にかスペイン語の一部となって定着しても不思議ではない。

Real Academia Española の正書法の変更に際しては、日本でのローマ字表記 kimono を考慮に入れた判断もなされたと思われる（2014年刊行の *Diccionario de la lengua española* 第23版では、Del jap. *kimono* と明記された）が、スペイン語を母語としている人間にとっては、quimonoの方がより自然に感じられるのではないだろうか。いつまでも外来語ではなく、すっかりスペイン語の語彙となった quimono が用いられるのは好ましい現象ではないかと思われる。今後、kimono がさらに増えるのか、それとも quimono が増えるのか、注意深く観察を続けていきたい。

Kimono か quimono か、スペイン語を母語とする人たちの揺れ動く言語心理を映しているかのような文章を、筆者はあるとき偶然見つけた。何と kimono と quimono が混在する以下の文章である。これこそ、今日のスペイン語事情をよく表しているのではないだろうか。

Esperé a las geishas con impaciencia. Las pequeñas jóvenes se deslizaron por fin en la habitación vestidas con exquisitos *kimonos* que tenían una pequeña cola y mangas anchas y largas. (...) Cuanto más joven es la geisha, más se adorna el cabello. Sus *quimonos*,

hechos del material más exquisito, se arrastran a su alrededor, y se sujetan flojos alrededor de la cintura con un obi, un fajín; sus mangas amplias y largas caen hacia atrás, mostrando sus brazos pecosos y sus manos infantiles. (*La vuelta al mundo en 72 días*, p. 220) ⁽³⁷⁾

Los *quimonos* están compuestos por tres piezas, cada una de ellas aproximadamente unos tres centímetros más larga que la anterior. Vi un *kimono* que una japonesa se compró para ir de vacaciones, un conjunto de crepé de seda gris, salpicado de flores de rosa de melocotón aquí y allá. (*Ibid.*, p. 224)

2. Kimono あるいは quimono の語義について

スペイン語の kimono あるいは quimono は、日本の伝統的な衣装である着物 (和服) を指すだけでなく、部屋着、ガウンをも指す。特に 19 世紀以降は、後者の意味で使われることが多くなり、小説に描かれる kimono あるいは quimono はほとんどの場合、部屋着、ガウンである。さらに、スペイン語圏で柔道や空手などの格闘技が盛んになると、柔道着や空手着の意味でも kimono や quimono が使われるようになった。20 世紀以降にスペインで発行された主要な辞書、特に Real Academia Española 編纂のスペイン語辞書を繙きながら、語義の変遷について見てみよう。

Real Academia Española が 2014 年に刊行した *Diccionario de la lengua española* (第 23 版) は、kimono を次のように定義している。

1. m. Túnica de origen japonés, de mangas anchas y largas, abierta por delante y que se ciñe, cruzándola, mediante un cinturón.
2. m. Vestimenta utilizada para practicar las artes marciales.

第1の語義は「日本から入ってきた、袖が広くて長く、前開きになっている上衣で、前を合わせて帯で締める」。第2の語義は「格闘技をするために使われる衣服」である。現代のスペイン語では、柔道着や空手着の意味でも kimono あるいは quimono が用いられている。2001年刊行の *Diccionario de la lengua española* (第22版) や2006年刊行の *Diccionario esencial de la lengua española* で、すでにこの第2の語義は付けられていたが、それよりも前の版、1992年刊行の *Diccionario de la lengua española* (第21版) では、第1の語義のみで、「格闘技をするために使われる衣服」という語義は載っていなかった⁽³⁸⁾。21世紀を迎える頃から、柔道や空手などの格闘技に対する一般の人々の関心がいっそう高まり、quimono de judo (yudo) や quimono de karate などの表現がよく使われるようになっていたと思われる。SM社が出したスペインの子ども向けの学習辞典には、quimono の項に次のような例文が載っている。

Mi traje de judo es un quimono blanco con un cinturón naranja.⁽³⁹⁾

2012年刊行の Real Academia Española, *Diccionario práctico del estudiante* では、quimono の項で、第2の語義をさらに詳しく説明している。

Conjunto de ropa deportiva para practicar artes marciales, formado por un pantalón amplio y una chaqueta de mangas anchas que se ciñe como un quimono. (p. 585)

また、2014年刊行の *Diccionario básico de la lengua española: primaria* も、第2の語義を要領よくまとめ、イラストを付けてわかりやすくしている。

Conjunto de chaqueta y pantalón muy anchos que se usa para practicar algunos deportes, como el yudo. (p. 555)

さて、ここで少々問題になるのは第1の語義についてである。スペイン語圏では、「和服」の意味だけではなく、「部屋着、ガウン」の意味でも kimono あるいは quimono を用いている。上述した *Corpus del nuevo diccionario histórico del español* および *Corpus del español del siglo XXI* の用例を見ても、大部分はこの意味で使われている。まず日本の伝統的な衣装である「着物、和服」について触れ、次に「部屋着、ガウン」として用いられている kimono あるいは quimono について述べるという方法が正確な説明の仕方であろう。1917年に刊行された José Alemany y Bolufer 編纂の *Diccionario de la lengua española* では、quimono を次のように2つに分けて定義していた。的確な定義だと思われる。

Túnica larga, usada en el Japón por los dos sexos. | Especie de bata de mujer, muy parecida al quimono.⁽⁴⁰⁾

さらに、1927年刊行の *Diccionario manual e ilustrado de la lengua española* では、quimono を以下のように説明している。簡潔ではあるが、これも理解しやすい定義であろう。

Túnica japonesa, o hecha a su semejanza, que usan las mujeres.

これ以降、*Diccionario de la lengua española* でも、1936年版、1939年版、1947年版、1956年版、1970年版、1984年版で、*Diccionario manual e ilustrado de la lengua española* とほぼ同一の語義を載せている。異なる点は、コンマを1つ取り除いたことである。

Túnica japonesa o hecha a su semejanza, que usan las mujeres.

一方、*Diccionario manual e ilustrado de la lengua española* の第2版 (1950年刊行) は、初版 (1927年刊行) と同じ語義を載せていたが、1985年刊行の第3版では、quimono の語義が詳しくなった。まず、袖幅が広く長いという着物の特徴が述べられ、前開きになっているので左右を合わせて帯で結ぶという、着物の着方が説明されている。この頃になると、日本の着物や着物風の衣服を着用する人たちがスペイン語圏でも増加したのかもしれない。実際に身につけないまでも、テレビの映像や新聞・雑誌の写真で着物姿を目にする人が多くなったのは事実だろう。

Túnica japonesa, o hecha a su semejanza, que usan las mujeres. Se caracteriza por sus mangas largas y anchas, y se abre y cruza por delante, ciñéndose a la cintura mediante un cinturón.

その後、1992年刊行の *Diccionario de la lengua española* 第21版は、わずかに書き換えただけで、この語義を受け継いでいる。

Túnica japonesa o hecha a su semejanza, que usan las mujeres, y que se caracteriza por sus mangas anchas y largas. Es abierta por delante y se cruza ciñéndose a la cintura mediante un cinturón.

そして、2001年刊行の第22版では、前述のとおり、「格闘技をするために使われる衣服」という第2の語義が加えられた。

quimono

1. m. Túnica de origen japonés que se caracteriza por sus mangas

anchas y largas. Es abierta por delante y se cruza ciñéndose mediante un cinturón.

2. m. Vestimenta utilizada para practicar las artes marciales.

さらに、初めに引用した 2014 年の第 23 版に継承されるが、もう一度よく比べてみよう。

1. m. Túnica de origen japonés, de mangas anchas y largas, abierta por delante y que se ciñe, cruzándola, mediante un cinturón.

2. m. Vestimenta utilizada para practicar las artes marciales.

2 番目の語義は全く同一であるが、1 番目の語義はやや簡潔になっている。しかし、どちらの版も、1992 年刊行の *Diccionario de la lengua española* 第 21 版まで付けられていた“Túnica japonesa o hecha a su semejanza”が“Túnica de origen japonés”と書き換えられてしまった。やはり、「日本の伝統的な衣服としての着物（和服）」であることを最初に説明し、「着物風の衣服，部屋着，ガウン」をも指すという定義が妥当ではないだろうか⁽⁴¹⁾。

3. Kimona あるいは quimona について

「部屋着」「化粧着」の意味で、kimona あるいは quimona という女性名詞が使われている地域がある。これはスペインではなく、カリブ海地域とアメリカ大陸の一部の地域である。

Kimona と quimona を早々と載せた辞書は、1927 年刊行の *Diccionario manual e ilustrado de la lengua española* で、キューバでは kimona が quimono の意味で使われていることを簡潔に記している。以後、1950 年

版, 1984 年版, 1989 年版で同様の記述をしている。

KIMONA. f. *Cuba*. Quimono

1993 年刊行の *Diccionario del español de América*⁽⁴²⁾ でも, kimono のすぐ上に kimona という項が並んでいる。日本語から導入された kimono を部屋着の意味で定義し, アルゼンチン, パラグアイ, ウルグアイで使用されていると説明している。そして, キューバとメキシコでは kimono の意味で kimona が使われていることを明記している。

KIMONA. f. *Cub.*, *Méx.* kimono.

KIMONO. (Voz japonesa.) m. *Arg.*, *Par.*, *Uru.* Bata larga hecha de tela fina y llamativamente coloreada o bordada que usan las mujeres como vestido de casa.

さらに, 2010 年刊行の *Diccionario de americanismos*⁽⁴³⁾ では, quimona の項で「女性用の部屋着」と定義されている。

quimona. f. *PR.* Bata de mujer para estar en casa.

ベネズエラの女流作家 Teresa de la Parra は, 『カラカス女性の極東旅日記』 *El diario de una caraqueña por el Lejano Oriente*⁽⁴⁴⁾ の中で, 日本人の姿を細やかな筆遣いで描いているが, 一カ所だけ kimono ではなく kimona を使っている。日常生活で身につける kimono に対して, 晴れ着としての kimona を意識しているような使い方である。

Y fue ello, que luego de encargar una nutrida orquesta sin olvidar el consabido cuerpo de baile, nos vestimos todas nuestras floreadas

kimonas de seda, con largas bandas y anchísimas mangas. (p. 441)

前述したように、Teresa de la Parra は小説 *Ifigenia* の中でも kimono という語を 19 回使っているが、いずれも女性の部屋着の意味で用いている。kimona と綴ったとき、彼女の心の中では日本の「着物」に対する特別な想いが広がっていたのかもしれない。

《注》

- (1) Rodrigo de Vivero は植民地時代のフィリピン総督で、任務を終えてヌエバ・エスパーニャに帰国する途中で日本に漂着した。

Del tratado al tratado, Tokio, Embajada de México en Japón, 2005, pp. 11-13 には、Rodrigo de Vivero の日本での足跡が短く紹介されている。

- (2) Joan Corominas の『スペイン語語源辞典』には、「着物」という語彙に慣れ親しむのが早かったポルトガル人たちが、16 世紀前半に「着物」をあらわす *quimão* を使っていたことが述べられている。そこから、「着物にする布地、反物」をあらわすスペイン語の *quimón* ができた、と説明を加えている。

Joan Corominas y José A. Pascual, *Diccionario crítico etimológico castellano e hispánico*, vol. 4, Madrid, Gredos, 1985, p. 730.

だが、ここで Rodrigo de Vivero が述べているのは、反物ではなく、すでに仕立てられた着物である。後世（特に 19 世紀以降）用いられるようになった *quimón* ではなく、いわゆる *quimono* を指していると考えるのが妥当だろう。

1603 年に刊行された『日葡辞書』では、*quimono* は *qimono* と記されている。土井忠生・森田武・長南実編訳『邦訳日葡辞書』岩波書店、1980 年、p. 497。

- (3) G. San Antonio y R. de Vivero, *Relaciones de la Camboya y el Japón*, Edición de Roberto Ferrando, Madrid, Historia 16, 1988 から引用。イタリックの強調は引用者による。
- (4) José María Gironella, *El Japón y su duende*, Barcelona, Planeta, 1964.
- (5) Vicente Blasco Ibáñez, *La vuelta al mundo de un novelista*, Valencia, Prometeo, 1924.
- (6) Teresa de la Parra, *Ifigenia*, París, Editorial Franco-Iberoamericana,

1924. 本稿ではテキストとして次の書を使用。

Teresa de la Parra, *Obra*, Caracas, Biblioteca Ayacucho, 1982.

- (7) Enrique Gómez Carrillo, *El alma japonesa*, París, Garnier hermanos, sin fecha.
- Luis de Oteyza, *En el remoto Cipango*, Madrid, Pueyo, 1927.
- (8) Sei Shonagon, *El libro de la almohada*, Selección y traducción de Jorge Luis Borges y María Kodama, Madrid, Alianza, 2004.
- (9) C. Yñigo, *Vocabulario japonés y lecciones de japonés*, Tokio, Maruzen, 1897.
- (10) Real Academia Española, *Corpus del nuevo diccionario histórico del español* (CDH). <<http://www.rae.es>> [noviembre de 2018]
- (11) Real Academia Española, *Corpus del español del siglo XXI*. (CORPES XXI) <<http://www.rae.es>> [noviembre de 2018]
- (12) José Alemany y Bolufer, *Diccionario de la lengua española*, Barcelona, Ramón Sopena, 1917.
- (13) Ancieto de Pagés, *Gran diccionario de la lengua castellana, autorizado con ejemplos de buenos escritores antiguos y modernos*, Continuado y completado por José Pérez Hervás, Tomo cuarto, Barcelona, Fomento comercial del libro, 1925.
- (14) Real Academia Española, *Diccionario manual e ilustrado de la lengua española*, Madrid, Espasa-Calpe, 1927.
- (15) Real Academia Española, *Diccionario de la lengua española*, 16.^a ed., Madrid, Espasa-Calpe, 1936.
- この後, 1939年版, 1947年版, 1956年版, 1970年版, 1984年版, 1992年版, 2001年版(第22版)まで, ずっと quimono の項に語義を付けている。
- (16) María Moliner, *Diccionario de uso del español*, 4.^a ed., Madrid, Gredos, 2016.
- (17) Martín Alonso, *Enciclopedia del idioma*, Madrid, Aguilar, 1982.
- (18) *VOX Diccionario general ilustrado de la lengua española*, Barcelona, Bibliograf, 1987.
- (19) *Diccionario Anaya de la lengua española*, Madrid, Anaya, 1991.
- (20) *Diccionario Salamanca de la lengua española*, Madrid, Santillana, 2006.
- (21) *Diccionario general de la lengua española*, Barcelona, Edebé, 2005.
- (22) *Diccionario para la enseñanza de la lengua española*, Barcelona, Bibliograf, S.A. y Univ. de Alcalá de Henares, 1995, p. 670.

- (23) Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española, *Diccionario panhispánico de dudas*, Madrid, Santillana, 2005.
- (24) Real Academia Española, *Diccionario esencial de la lengua española*, Madrid, Espasa-Calpe, 2006.
- (25) Antonio Fernández Fernández, *Diccionario de dudas*, Oviedo, Ediciones Nobel, 2007.
- (26) Real Academia Española, *Ortografía de la lengua española*, Madrid, Espasa, 2010.
- (27) *Ibid.*, pp. 116-117.
- (28) *Diccionario básico de la lengua española: primaria*, Madrid, SM, 2014.
- (29) *Diccionario didáctico de español: elemental*, 3.^a ed., Madrid, SM, 1996.
- (30) *Diccionario esencial de la lengua española*, 6.^a ed., Madrid, SM, 2006.
- (31) *Diccionario primaria de la lengua española: nivel avanzado*, 10.^a ed., Madrid, SM, 2006.
- (32) Real Academia Española, *Diccionario de la lengua española*, 23.^a ed., Madrid, Espasa, 2014.
- (33) *Nuevo diccionario escolar de la lengua española*, Madrid, Santillana, 2012.
- (34) *Nuevo diccionario básico de la lengua española*, Madrid, Santillana, 2013.
- (35) *Nuevo diccionario esencial de la lengua española*, Madrid, Santillana, 2015.
- (36) Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española, *Diccionario práctico del estudiante*, Madrid, Santillana, 2012.
- (37) Nellie Bly, *La vuelta al mundo en 72 días*, Traducción de Rosa M. Salles Puig, Barcelona, Ediciones Buck, 2010.
- (38) この点については、Real Academia Española の辞書よりも SM 社の辞書の方が進んでいて、*Diccionario didáctico de español: elemental*, 3.^aed., Madrid, SM, 1996 には、すでに第 2 の語義が見られる。
- (39) *Ibid.*, p. 706.
- (40) *Op. cit.*, p. 1402.
- (41) 日本で発行されたスペイン語の辞書の中では、次のような定義が的確だと思われる。
「①着物、着物風のガウン、部屋着 ②柔道着、空手着」
山田善郎他監修『スペイン語大辞典』白水社、2015 年、p. 1911.
- (42) Marcos A. Morínigo, *Diccionario del español de América*, Madrid, Anaya & Mario Muchnik, 1993.

- (43) Real Academia Española, *Diccionario de americanismos*, Madrid, Santillana, 2010.
- (44) Teresa de la Parra, *op. cit.*, p. 441.

(原稿受付 2018年11月29日)